

目蒲線（現：目黒線）目黒駅付近～洗足駅付近間立体交差事業

**7月2日(日)、目黒線不動前駅～洗足駅間の約2.4kmを地下化し、16カ所の踏切を解消します
9月下旬（予定）に目黒線で急行運転を開始**

東京急行電鉄株式会社

東京急行電鉄（本社：東京都渋谷区、社長：越村敏昭）では、東京都、品川区、目黒区と共同で進めている目蒲線（現：目黒線）目黒駅付近～洗足駅付近間立体交差事業の進捗に伴い、2006年7月2日（日）、目黒線不動前駅～洗足駅間の約2.4kmを地下化します。これにより、新たに16カ所の踏切を解消するほか、武蔵小山、西小山の2駅のホームが地下に切り替わります。地下線路への切り替え工事は、7月1日（土）の終電後（7月2日未明）に行います。

目蒲線（目黒駅付近～洗足駅付近間）立体交差事業は、都市計画道路補助第26号線整備事業の事業認可（1995年9月）に伴い、東京都、品川区、目黒区、当社を事業主体として、目黒線目黒駅付近～洗足駅付近間の約2.8kmの区間を道路と立体交差化するもので、1995年11月から実施しています。なお、事業区間のうち目黒駅付近～不動前駅間の約0.4kmについては、1999年10月に高架化を実施済みです。

今回の工事により、事業区間全区間が立体交差化され、踏切は今回の16カ所と、すでに解消した2カ所を合わせ、計画していた18カ所全てを解消することになります。これにより、安全性の向上と、交通渋滞の解消が図られるほか、鉄道によって隔てられていた沿線地域の一体化が実現されます。

また今回の地下線路への切り替えに伴い、武蔵小山駅ホームは従来の1面2線から、急行列車の追い抜きが可能な2面4線になります。これを受けて、2006年9月下旬に、目黒線目黒駅～武蔵小杉駅間で急行運転を開始する予定です。

なお、当事業は道路整備の一環として、「ガソリン税・自動車重量税等」の財源をもとに、国土交通省所管の国庫補助により、東京都の都市計画事業として施行しています。

目黒線不動前駅～洗足駅間地下化切り替え工事の概要および目黒線急行運転の概要は別紙のとおりです。

以上

別 紙

目黒線不動前駅～洗足駅間地下化切り替え工事の概要

実施日時	2006年7月1日(土)終電後(7月2日未明) 悪天候等により工事を行えない場合は、以下の予備日に実施します。 7月 8日(土)終電後(7月 9日未明) 7月15日(土)終電後(7月16日未明)
実施場所	不動前駅付近(武蔵小山駅寄り、所在:品川区西五反田)と洗足駅付近(西小山駅寄り、所在:目黒区洗足)の2カ所
工事内容	不動前駅～洗足駅間の約2,370mについて、現在使用している地上の線路から、地下(一部は掘割)線路へ切り替えます。また、武蔵小山駅、西小山駅のホームが地下化されます。なお、武蔵小山駅ホームは2面4線となり、急行列車の追い抜きが可能になります。
工事の効果	地下線路への切り替えにより、新たに16カ所の踏切を解消します。 1999年10月に解消した不動前駅付近の踏切2カ所と合わせ、18カ所の踏切を解消

(参考)目蒲線(現:目黒線)(目黒駅付近～洗足駅付近間)立体交差事業の概要

工事区間	目黒駅付近～洗足駅付近の約2,803m
工事内容	上記工事区間の立体交差化を図ります。 ・内訳:高架部分 約402m、掘割部分 約511m、地下部分 約1,890m ・不動前駅を高架化(1999年10月に不動前駅を高架化、2003年1月に目黒駅付近～不動前駅間が完成) ・武蔵小山駅、西小山駅を地下化
工 期	1995年11月着工、2009年3月竣工予定
総事業費	約878億円

目黒線急行運転の概要

開始時期	2006年9月下旬(予定)
運転区間	目黒線目黒駅～武蔵小杉駅
停車駅	目黒、武蔵小山、大岡山、田園調布、多摩川、武蔵小杉 運転開始日、ダイヤなど詳細については、決まり次第お知らせします。

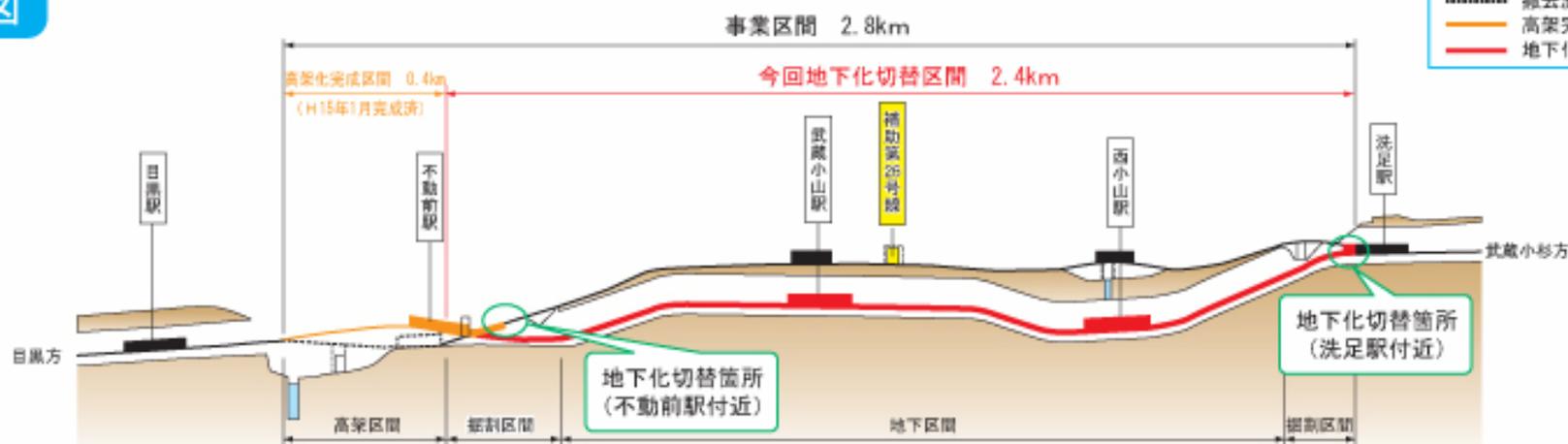
以 上

東急目黒線立体交差事業 概要図

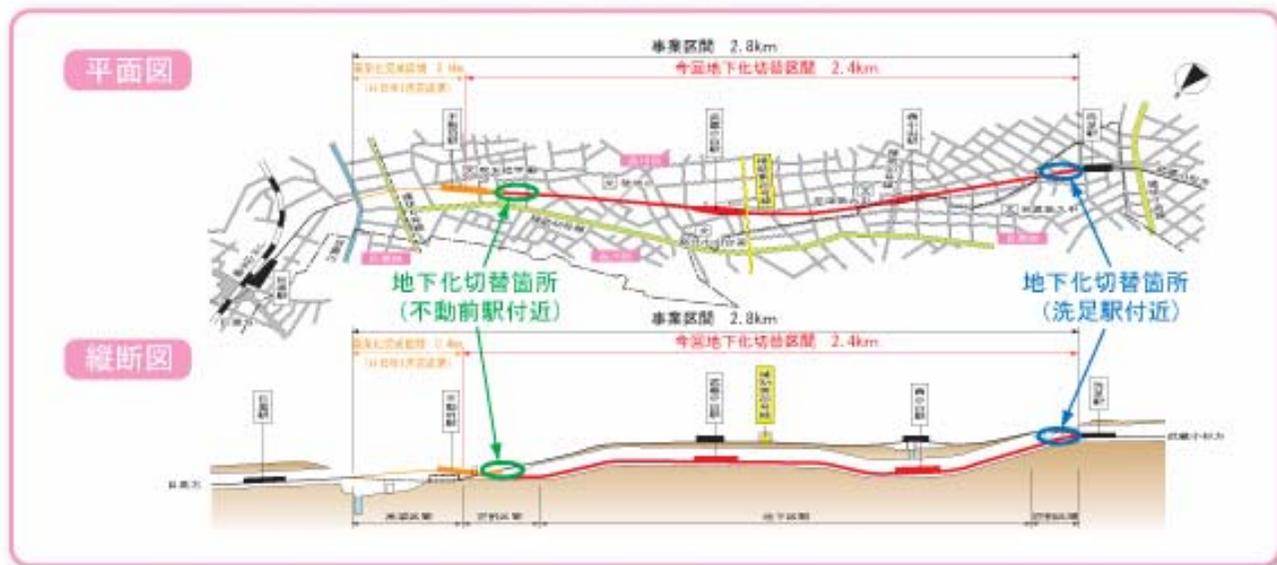
平面図



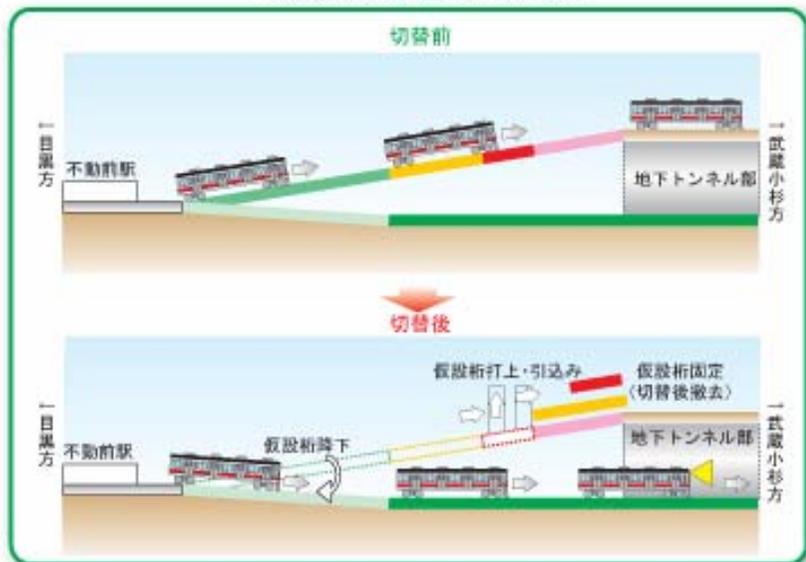
縦断面図



位置図



不動前駅付近概要図 (断面図)



洗足駅付近概要図 (断面図)

